

# 島根県スキー連盟

## —— これまでのあゆみ・現在の状況

本連盟は、昭和5年11月25日に創立。令和6年シーズンに94周年を迎えた。

本連盟の目的は、島根県内のアマチュアスキー団体を代表して、公益財団法人全日本スキー連盟及び公益財団法人島根県スポーツ協会に加盟し、スキー（スノーボードを含む。）の健全な普及・振興を図り、併せて加盟団体及び関係諸団体との相互の親睦・融和を図ることである。令和6年シーズン時点で、本連盟の目的に賛同する、県内26の加盟団体でもって組織している。

主に各種大会の運営、競技者の発掘・育成・強化を担当する「競技部」と、主にスキーの普及と基礎スキー指導者の育成・強化に携わる「教育部」の2部で組織を構成し、次のような事業を行っている。

- (1)スキーの振興に関する具体的方策とその研究・調査。(2)スキーに関する競技会、講習会、検定会及び研修会等の開催・助成・後援。(3)スキーに関する広報・啓発。(4)スキーに関する指導者の養成及び認定。(5)スキーに関する安全・傷害防止対策



クロスカントリー 国スポ 加藤郁海選手

- の普及・研究。(6)各種競技大会への選手及び役員の選考・派遣並びに選手強化・養成。(7)スキー学校の運営指導・育成。(8)その他本連盟の目的達成のために必要な事項。

令和6年シーズンの会員数は、全日本スキー連盟(SAJ)会員が26団体で約550人、指導員登録が約300人、競技者登録がアルペンとクロスカントリーを合わせて約50人である。

全国大会での活躍は、選手層の薄さから、なかなか難しいのが現状である。国スポにおけるこれまでの入賞者は、第30回大会クロスカントリー成年男子教員4部3位の清水竜男選手、第36回大会クロスカントリー成年女子2部7位の坂本美穂(旧姓 小林)選手、第47回大会クロスカントリー成年女子2部4位の小原久美子選手、第50回大会クロスカントリー成年女子2部8位の藤原弘江選手の4人である。

実態を踏まえ、独自の強化策として、平成10年度より本連盟会長表彰を「スキー功労者」「優秀選手」の分野で独自の基準を設けて行っている。令和6年シーズンは、5人の優秀選手を表彰した。優秀選手については、全国レベルの大会で上位30%以内を達成する選手も少数ではあるが継続して見られている。

また、平成26年度より報奨金交付規定を「競技大会」「技術選手権大会」の分野ごとに設け、該当の選手を表彰している。全国大会レベルでの上位50%(30%)以内

を達成する選手が継続して見られている。H26:1人、H27:3(1)人、H28:3(1)人、H29:4(1)人、H30:2(1)人、R1:10(1)人、R2:6(2)人、R3:3(1)人、R4:8(1)人を表彰した。

近年では、島根出身の廣瀬菜実選手(日大)が平成29年第95回全日本スキー選手権アルペン競技スピード系女子スーパー大回転と、平成30年全国学生スキー選手権大会女子スーパー大回転で準優勝となる、県勢過去最高の活躍があった。



アルペン 全日本スキー選手権 廣瀬菜実選手

本連盟の課題として、選手の発掘に加え、高校生の育成・強化があげられる。現在スキーは、高体連において、社会体育型の強化となっている。よって、練習日や、専門のコーチ陣に学ぶ機会が限られることが課題である。強化指定校制への移行を進めたい。

また、少子高齢化等に伴い、若い選手・指導者が少ないことや、連盟もスポ協の加盟団体として選手派遣等に協力しているが、財政面は、会費の増額で対応していることが挙げられる。今後の更なる高齢化による会員数の減少は、各クラブや本連盟の存続に大きな影響があると思われる。

## —— これから

チーム島根の構成メンバーとして、2030年島根かみあり国スポ(第84回国民スポーツ大会)での入賞(クロスカントリー8位・アルペン8位)をめざす。そのためにも、スキーの振興・普及に努め、スキー人口の増加またはその維持のための活動を行い、選手の発掘・強化・育成、指導者の育成に注力して取り組んでいきたい。



「にいがた妙高はね馬国体」開会式